

世界史のなかのウクライナ

なぜこんなことになったのか。高校世界史レベルでかなりのことが分かる。
争いの根底にあるものとは。

(3月18日収録、YouTube 日外協チャンネル「世界史の中のウクライナ」から抜粋)

リクルート=スタディサプリ講師 村山秀太郎

1. キエフ公国からロシア帝国まで

ウクライナの国旗は青と黄色だが、黄色は小麦を意味している。はるか紀元前のギリシャ人は現在ウクライナがある地域に小麦を求め、セバストポリやマリウポリを建設した。ポリとはポリスつまりギリシャの都市国家に由来する。

ここにスキタイ人が入ってくる。

はるか紀元前の頃、黒海の北、現在のウクライナの地に最初に入ってきたのは、騎馬民族であるスキタイ人。^{きょうど}匈奴と同じ民族だったという説もある。その後、ローマ帝国の領土となる。

スラブ人の故郷

欧州の三大民族はラテン人、ゲルマン人とスラブ人。スラブ人はウクライナ西部のカルパティア山脈のあたりに住んでいた。ウクライナはスラブ人にとっての故郷なのだ。

スラブ人に刺激を与え活性化させた民族が2つある。

1つはハザール人。^{にしとっけつ}西突厥(トルコ)に支配されていたトルコ系の民族だ。彼らはユダヤ教に改宗する。ユダヤ人の国がイスラエルよりもずっと前からあったことになる。

もう1つはヴァリャーグ人。バルト海にいたバイキング(=ノルマン人)が人口増により欧州を取り囲むように拡大、862年には首領リューリクがノブゴロド国を建国する。そのリューリクが属していたヴァリャーグ系の部族の名前がルーシ(ロシア)。リューリクの家来が南下し見つけた土地がキエフである。その家来を倒したオレーグ

は、882年にキエフ＝ルーシを建国。ドイツ語ではロシアとは「ルーラント」だから、これこそがロシアの原型だ。

988年、キエフ公国の国王ウラジミール1世が結婚した相手は、ビザンツ(東ローマ)帝国皇帝の妹アンナ。ビザンツ帝国の首都コンスタンティノーブル(現在のイスタンブール)はギリシャ正教の中心地であり、この結婚によってキエフ公国(広義のロシア)がギリシャ正教化する。

全土が帝政ロシアに

13世紀は「モンゴルの世紀」。1240年、チンギスハンの孫バトゥによってキエフ公国は滅ぼされる。ここから「タタールのくびき」(モンゴル人による束縛)が始まる。

モンゴルに続いて脅威となったのは、現バルト三国の1つであるリトアニア。モンゴルに間接支配されていたウクライナの土地を支配するようになる。

次にやってくるのは960年に成立したピャスト朝ポーランド。カシミール大王の時にウクライナ西部を支配する。ポーランドはカトリックの国だが、ユダヤ人によって中世に大発展を遂げる。1492年はレコンキスタが完成した年。アラブ人と共にイベリア半島から駆逐されたユダヤ人は、ピャスト朝ポーランドへと逃れ、この地で経済や文化を繁栄させた。

その後、カシミール大王の死後、ポーランドはリトアニアと合併。1386年から1572年、ヤゲヴォ朝ポーランドがウクライナ西部を支配す